

J Aバンク長崎における地域密着型金融の取組状況（2019年度）

J Aバンク長崎（長崎県下 J Aと農林中央金庫長崎支店）では、農業と地域社会に貢献するため、2019～2021年度 J Aバンク長崎中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

2019年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク長崎は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク長崎は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2020年3月末時点の J Aバンク長崎の農業関係資金^(注1)残高は21,121百万円、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は4,811百万円を取り扱っています。
(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
(注2) J Aバンク長崎が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】（単位：百万円）

| | 2020年3月末現在 |
|-------------|------------|
| 農業 | 20,216 |
| （穀作） | 343 |
| （野菜・園芸） | 2,134 |
| （果樹・樹園農業） | 562 |
| （工芸作物） | 154 |
| （養豚・肉牛・酪農） | 5,023 |
| （養鶏・鶏卵） | 81 |
| （養蚕） | 1 |
| （その他農業）（注1） | 11,919 |
| 農業関連団体等（注2） | 905 |
| 合計 | 21,121 |

(注1) 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられないものおよび農業サービス業が含まれています。

(注2) 「農業関連団体等」には、J Aや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。

(注3) 小数点以下を四捨五入しております。

【資金種別農業資金残高】 (単位：百万円)

| 種 類 | 2020年3月末現在 |
|---------------|------------|
| プロパー農業資金（注1） | 14,044 |
| 農業制度資金（注2） | 7,077 |
| （農業近代化資金） | 5,394 |
| （その他制度資金）（注3） | 1,683 |
| 合 計 | 21,121 |

（注1）「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

（注2）「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJAバンク長崎が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク長崎が低利で融資するものを対象としています。

（注3）「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

| 種 類 | 2020年3月末現在 |
|------------|------------|
| 日本政策金融公庫資金 | 4,811 |
| 合 計 | 4,811 |

（注）JAバンク長崎では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取扱っています。

JAバンク長崎は長崎県の主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【長崎県における農業近代化資金の取扱いシェア】

○農業近代化資金（2019年12月末）

JAバンク長崎 98.08%

(2) 担い手のニーズに応えるための取り組み

JAバンク長崎では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取り組みを行っています。

JAでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、2020年5月時点で7JA・38名配置しています。

JA系統独自の農業融資資格制度「JAバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は2019年4月1日時点で県内に49名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との

合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

| 具体的取組事例 |
|---|
| <p>JAの金融・畜産・営農・経済各部の部長、貸付担当、農機センター長が集まり、各部門が持つ組合員の情報を共有、農業融資の重要性についての意見交換等を目的として、事業間連携会議を開催しました。</p> <p>JAの農業融資担当者と農林中央金庫職員による、農業者や農業法人への同行訪問を定例化し、新しい案件の発掘に取り組んでいます。</p> |

(4) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

JAバンク長崎では、JAの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンクCS調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

JAバンク長崎は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

JAバンク長崎では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位：件、百万円)

| | 2019年度実行件数 | 2019年度実行金額 | 2020年3月末残高 |
|---------|------------|------------|------------|
| 青年等就農資金 | 77 | 385 | 1,375 |
| 就農支援資金 | — | — | 60 |
| 合計 | 77 | 385 | 1,435 |

(2) JAバンク長崎講演会・セミナー等の開催・参画

JAバンク長崎では、著名な経営者を招いた講演会や、6次産業化・輸出・ブランドに関するセミナー等を開催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

【2019年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

| 講演会・セミナー名 | 開催日 | 主催者 | 対象参加者 | 参加者数 | 内容 |
|------------|------------|-------------|---------------------------|------|------------------|
| JA長崎県青協講演会 | 2019年4月26日 | 長崎県農協青年部協議会 | 長崎県農協青年部メンバー、JA長崎県中央会役職員等 | 50名 | 題目「JAバンクの主な農業資金」 |

(3) 農業法人とのネットワーク拡大

JAバンク長崎では、農業法人とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでいます。

(4) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク長崎では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【2019年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

| | | 期初経営改善支援取組先 A | Aのうち再生計画を策定した先数 a | Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b | Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c | 再生計画策定率 = a/A | ランクアップ率 = b/A |
|---------------|----------------|---------------|-------------------|---------------------------|--------------------------|------------------|------------------|
| 正常先① | | 8 | 0 | — | 4 | 0.0% | — |
| 要注意先 | うち その他要注意先② | 19 | 5 | 2 | 15 | 26.3% | 10.5% |
| | うち 要管理先③ | 17 | 0 | 5 | 11 | 0.0% | 29.4% |
| 破綻懸念先④ | | 8 | 0 | 3 | 5 | 0.0% | 37.5% |
| 実質破綻先⑤ | | 20 | 0 | 1 | 19 | 0.0% | 5.0% |
| 破綻先⑥ | | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — |
| 小計 (②～⑥の計) | | 64 | 5 | 11 | 50 | 7.8% | 17.2% |
| 合計 | | 72 | 5 | 11 | 54 | 6.9% | 15.3% |

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は2020年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク長崎では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み (ファンドの活用)

J Aバンク長崎では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

2019年度までのアグリシードファンドの実績は、7件、41,240千円となっております。

(2) 6次産業化の支援

J Aバンク長崎では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる6次産業化促進支援を行っています。

(3) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク長崎では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取扱っています。

【2019年度 負債整理資金の貸出実績】

2020年3月末残高は、以下のとおりとなっています。

| | |
|--------------------|--------|
| <農業経営負担軽減支援資金(注1)> | 130百万円 |
| <畜産特別資金(注2)> | 227百万円 |
| <その他> | 469百万円 |
| 合計 | 826百万円 |

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、J Aなどの融資機関において取扱っています。

(4) 動産担保融資の活用

J Aバンク長崎では、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っております。長崎県における融資の実績は次表のとおりです。

【動産担保融資活用実績】

(単位：件、百万円)

| | 2019年度末 | |
|------|---------|-------|
| | 件数 | 残高 |
| 農産物 | 0 | 0 |
| 畜産物 | 163 | 1,588 |
| 機械設備 | 1 | 18 |
| その他 | 15 | 187 |
| 合計 | 179 | 1,793 |

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク長崎では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っております。

(1) 食・農への理解促進

J Aバンク長崎は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンク長崎を通じて、2019年度には県下の約330の小学校に対して、小学校5年生と先生方分として、約14,000冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下J Aでは、食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

5 地域密着型金融の取組事例

別紙のとおり

以上

農業近代化資金にかかる保証料助成による農業者所得の向上

1. 動機(経緯)

農業近代化資金の保証料助成については、JA、全国農業協同組合連合会長崎県本部、全国共済農業協同組合連合会長崎県本部および長崎県農業信用基金協会により2017年度から本格的に実施されました。同事業は農業者の農機具購入やハウス建設、素牛導入など多様な資金ニーズに積極的に活用され、大きな成果を上げており農業融資の伸長に大きく寄与しています。

2. 概要

| | |
|------|--------------------------------|
| 事業名 | 農業近代化資金保証料助成事業 |
| 対象資金 | 農業近代化資金 |
| 事業期間 | 2017年3月1日～2020年3月31日 |
| 助成範囲 | 事業期間内に新規に貸し出した農業近代化資金に対する保証料全額 |

3. 成果・効果

- ①2019年4月～2019年12月の実績
 - ・新規貸出額：169件/1,847百万円
(前年同月末比+17件/+624百万円)
 - ・近代化資金残高：5,005百万円
(前年同月末比+705百万円)
- ②農業者のコスト負担軽減による所得向上
- ③農業融資担当者の営業活動の活性化

4. 今後の予定

農業近代化資金の保証料助成は当初2020年3月31日までの事業予定でしたが、農業者の経営サポートに大いに貢献し、継続を望む声も多くあがっていたことを受け2020年4月1日～2023年3月31日まで継続して実施されます。引き続き当事業の活用により農業者の経営をサポートし農業所得の向上に貢献していきます。

営農サポート資金を活用した農機クレジット借換による農業者所得向上への取組み

1. 動機(経緯)

農業者が農機具販売店で農機具を割賦払いで購入する際に締結するクレジット契約の中には比較的高金利（高手数料）のものが存在します。そのことに着目し県域創設資金である営農サポート資金につきましては、2018年度から保証料助成措置とあわせ資金使途に「農機クレジットの借換」を追加しました。

2. 概要

高金利（高手数料）の農機クレジット契約を営農サポート資金で借換することにより、農業者の支払負担が軽減され所得増加に直結します。また県内JAの農業融資伸長・利息収入の増加にもつながり、結果として地方自治体の税収増加も期待されます。※詳細につきましては別途スキーム図を参照ください。

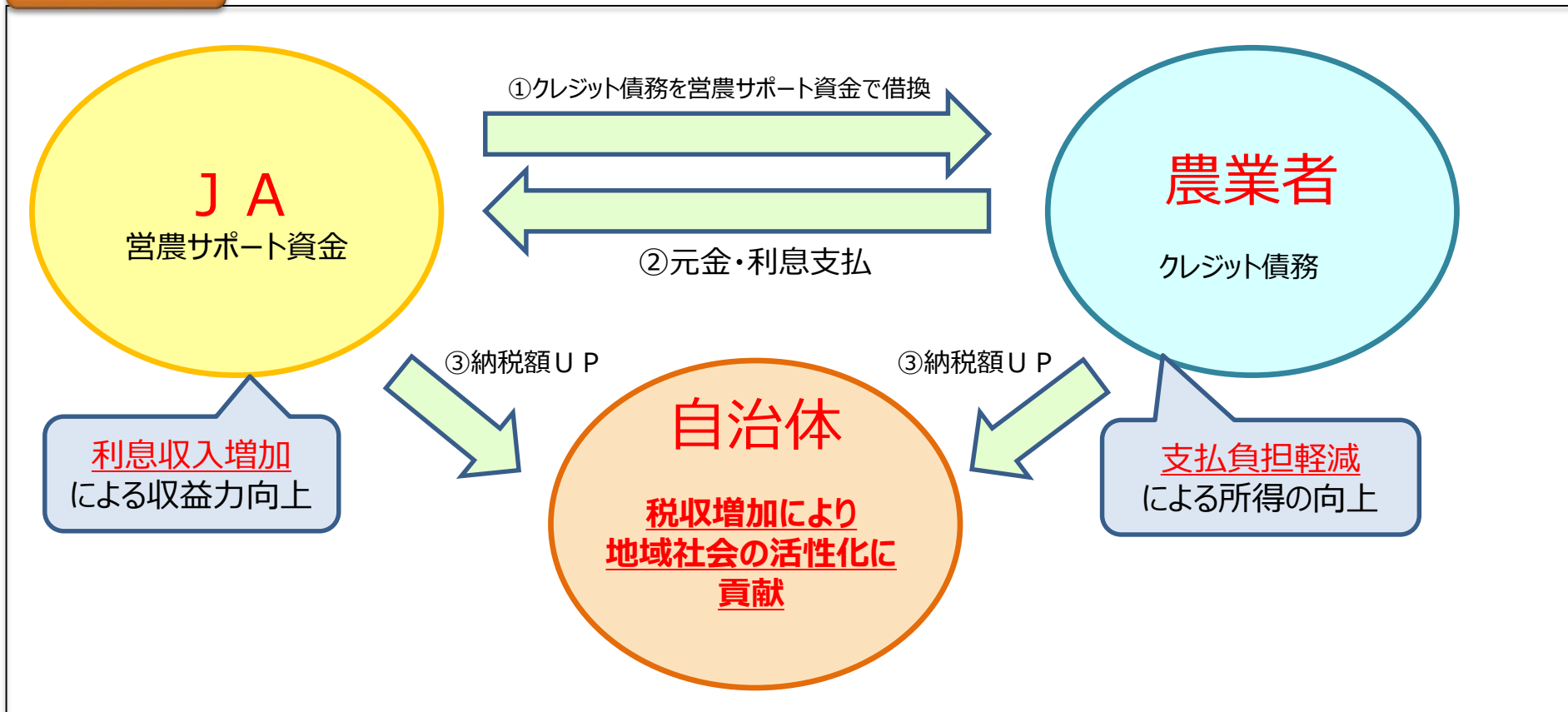
3. 成果・効果

- 2019年4月～2019年12月の借換実績
- ・農機クレジット借換額 : 15件/36百万円
 - ・農業者支払負担軽減額 : 3百万円
 - ・JA利息収入増加額 : 2百万円

4. 今後の予定

営農サポート資金の保証料助成事業は2019年度にて終了いたしましたが、引き続き多様な資金ニーズへの対応に努め、農業者所得の向上に取り組んでいきます。

5.スキーム図



| | |
|-------------|---|
| <p>メリット</p> | <p>JA : 利息収入の増加 → <u>住宅ローンのような金利競争が少なく、高い収益を確保</u> 農業者 : 支払利息の軽減 → <u>支払負担の大幅な軽減により所得向上に直結</u> 自治体 : 税収の増加 → <u>農業者の所得向上分、JAの利息収入分が納税額に寄与</u></p> |
|-------------|---|